

東部

海区短信

Vol. 4

青森県海区漁業調整委員会事務局
平成22年4月26日



はじめに

第19期11回東部海区漁業調整委員会を開催しましたので、概要をお知らせします。

出席委員（敬称略）木村、富田、東田、川口、松本、上野、二本柳、
澤口、松下、田高、川端、葛西、服部

欠席委員（敬称略）熊谷

開催日時：平成22年4月22日（木） PM 1:30～3:00

開催場所：青森市 ラ・プラス青い森 3階「プリムラ」



議 題

1. 青森県海区漁業調整委員会規程の一部改正について（承認）

青森県行政改革大綱（H20.12）に基づく県庁改革の一環として、より簡素で効率的かつ機動的な業務執行体制の構築を図るという観点から、職制等の見直しが行われた結果、平成22年4月1日付け人事異動により海区委員会事務局の「次長職」がなくなりました。

これを受けて、海区委員会事務局の組織と職員の職務等を定めている「県海区漁業調整委員会規程」の一部を改正することについて審議した結果、「県海区漁業調整委員会規程の一部を改正する公示（案）」どおり公示することになりました。

【公示(案)の内容】

青森県海区漁業調整委員会規程（昭和三十九年七月三十日青森県東部海区漁業調整委員会公示第一号）の一部を次のように改正する。

第十六条第三項中「次の各号に掲げる職」を「局長」に改め、同項各号を削り、同条第五項中「次長」を削る。

第十七条中第四項を第五項とし、第三項を第四項とし、同条第二項中「次長」を「前項の規定により指定された職員」に改め、同項を同条第三項とし、同条第一項の次に次の一項を加える。

2 局長は、その事務を代決する職員を指定することができる。

附 則

この規程は、公示の日から施行する。（平成22年5月6日付け県報に告示予定）

2. 東部海区漁業調整委員会指示第2号に基づくいかつり漁業の新規操業承認について（決定）

去る平成22年2月26日付けで発動されました東部海区管内におけるいかつり漁業の操業承認に関して、この度、小田野沢漁業協同組合長から新規1隻の操業承認要望があり、当委員会において審議が行われた結果、認めることに決定しました。

【承認要望の内容】

1. 小田野沢漁業協同組合所属漁船
2. 総トン数 4.8トン、D90ps
3. 根拠地港 主；小田野沢漁港 従；白糠漁港

2. 海区漁業調整委員会60周年記念大会について（報告）

海区漁業調整委員会は、漁業法の規定に基づき、漁業に関する事項を処理するため、昭和25年に発足された機関で、今年度で60年目を迎えます。

これを受けて、全国40都道府県海区海区委員会で構成する全国海区漁業調整委員会連合会では、来る5月20日に東京都内において、「海区漁業調整委員会60周年記念大会」を開催し、同記念大会の中で、これまでに功績のあった委員に対して、農林水産大臣表彰と水産庁長官表彰を行うことしております。

本県関係では、県知事から推薦されました7名の海区委員の方々に水産庁長官感謝状が授与されることになり、県東部海区委員会からは、川口（東通村）、松本委員（六ヶ所村）、上野委員（六ヶ所村）の3名の方々に表彰されることになりました。

3. 太平洋広域漁業調整委員会及び太平洋北部会の概要について（報告）

近年、我が国周辺水域の水産資源の減少に伴い、国は、資源回復を図るため、都道府県の区域を超えて広域的に分布回遊する魚種については、幅広い範囲の関係漁業者や都道府県などが協力して資源管理を行う必要があるとの観点から、平成13年10月に、「太平洋広域漁業調整委員会」、「瀬戸内海広域漁業調整委員会」及び「日本海・九州西広域漁業調整委員会」を新たに設置し、各都道府県の合意のもとに、広域的に分布回遊する資源を対象とした資源回復計画を策定し、同計画の実施に取り組んでいます。

ついては、去る3月25日に、東京都内で開催されました第13回太平洋広域漁業調整委員会及び第17回太平洋北部会の概要について、当東部海区委員会の互選委員として出席されました松本委員（漁業者委員；六ヶ所村）と、オブザーバーとして出席した事務局職員からそれぞれ報告がなされた。

4. クロマグロを巡る情勢について（情報提供）

県から、最近の新聞記事等で話題となっている大西洋クロマグロのワシントン条約掲載をめぐる動きや、それに呼応して、本県が関係する太平洋クロマグロに関する「中西部太平洋クロマグロ類委員会（WCPFC）の保存管理に向けた、今後の我が国の取組み針等について情報提供がなされた。

世界のまぐろ生産及び消費における我が国の地位

- ・2007年世界のまぐろ漁獲量（約175万トン）の約14%（24.8万トン）を漁獲する世界のまぐろ漁業国
- ・一方、漁獲されたまぐろの41%（約41万トン）を消費する世界のまぐろ消費国
- ・高級まぐろの代表であるクロマグロでは、世界の漁獲・養殖量（約57千トン）の7～8割（43千トン 太平洋21.6千トン,大西洋21.4千トン）を我が国で消費

まぐろの体長・体重と年齢の関係

年齢	体長（cm）	体重（kg）	備考
0	32.2	0.7	
1	69.9	6.9	2kgのヨコワは0歳魚
2	100.9	21.0	
3	126.4	41.6	3歳で一部が成熟開始
4	147.4	66.4	
5	164.7	93.0	5歳で瀬全てが成熟

次会の開催予定

開催時期 6月下旬か7月初旬 開催場所 青森市内

おわりに

春となれば、陸奥湾で捕れるトゲクリガニとガサエビ（シャコ）は身が入って美味しくなり、観桜会のメインデシュとなります。そして、桜が散り始める頃から、湾内の野内川や蟹田川などの河口域でのシロウオ漁（やなや敷網）が最盛期となり、名物の「おどり食い」が食べられるようになります。「ニラとシロウオの卵とじ」も女性に人気があるようです。

ところで、「シラウオ」という魚の名前も聞いたことがあるかと思います。全国の漁獲量の約8割は青森県小川原湖で漁獲されます。シロウオは沿岸や内湾にすむ小型（体長4cm）のハゼの仲間で、産卵期に海から遡上し、河川の下流域で産卵します。一方、シラウオは河口域から内湾の沿岸、汽水湖にすむ体長10cmほどの細長い魚で、サケの仲間で脂びれがあり、シロウオとは別種です。

シロウオ



シラウオ



連絡先
青森県海区漁業調整委員会事務局
TEL：017-734-9851
FAX：017 734 8166